平成19年度　17th

伊豆沼・内沼の自然フォトコンテスト

入 選 作 品

主催　伊豆沼・内沼の自然フォトコンテスト実行委員会
（栗原市、登米市、宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団）
後援　宮城県、若柳観光協会、築館観光協会、登米市観光物産協会、
宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリ友の会、
河北新報社、読売新聞東北総局、朝日新聞仙台支局、
毎日新聞仙台支局、岩手日報社
協賛　富士フイルムイメージング㈱、宮城県写真商業組合

入　選　者

各　賞	題	氏　名	住　所
最優秀賞（宮城県知事賞）	群　翔	蛭田敏夫	登米市中田町
優秀賞（宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団理事長賞）	群　翔	千葉忠雄	栗原市若柳
金賞（栗原市長賞）	出番前	千葉　稔	登米市豊里町
金賞（登米市長賞）	羽紋様	伊藤正美	登米市迫町
銀賞（若柳観光協会会長賞）	夕日に向ってマガン乱舞	伊藤孝喜	登米市中田町
銀賞（築館観光協会会長賞）	二花二葉	林　茂	宮城県仙台市
銀賞（登米市観光物産協会長賞）	ふれあい	菊池郁子	東松島市矢本
銀賞（宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリ友の会会長賞）	蓮と雁	菅原敏彦	黒川郡大和町
銅賞（河北新報社賞）	暁映雁行	伊藤　浩	大崎市古川
銅賞（読売新聞社賞）	真夏の花園	菊地誠一	宮城県石巻市
銅賞（朝日新聞社賞）	戯　れ	高橋利行	登米市迫町
銅賞（毎日新聞社賞）	岸辺の情景	武居節子	岩手県一関市
銅賞（岩手日報社賞）	落ちた羽、落ちる日	水谷雅寿	栗原市築館
入選	夏のひととき	阿部三彦	宮城県仙台市
入選	まこも堀り	中山隆夫	大崎市三本木
入選	昇陽の刻	藤原幸子	登米市米山町
入選	夕餉のとき	斎藤潤子	東京都新宿区
入選	晩秋の漁	椎名　栄	神奈川県鎌倉市
入選	初冬の朝	小出一郎	大崎市古川
入選	夕　映	西條きみ子	宮城県仙台市

総　評

今年のコンテスト作品は、伊豆沼・内沼の色々な側面を写し出している作品が数多く見られました。沼を訪れる鳥たちの姿だけではなく、沼や鳥と人々との関わり合いが感じられる作品もありました。今年はまたひと味違った雰囲気で、とても印象深かったです。風景を見つめる作者の「心」が伝わってきたように感じました。これからも、美しい、後世に伝えていかねばならない風景を、みなさんの視点で捉えていただきたいと思います。そして、その作品をより多く見ることができればと願っております。

フォトコンテスト審査員　竹　内　敏　信

1943年愛知県生まれ。名城大学理工学部卒。愛知県庁勤務の後、フリーとなる。主として35ミリ一眼レフカメラを駆使し、鋭利な感覚と的確なテクニックで自然の映像化に挑戦し続ける。風景写真の第一人者として最も人気が高く、多くの写真のコンテストの審査員を務める。写真展、講演会など多数。主な写真集に「花祭」（誠文堂新光社）、「天地」「天地聲聞」「櫻」（出版芸術社）、「天地風韻」（日本芸術出版社）、「雪月花」（トーキョーセブン）
（社）日本写真家協会会員
日本写真芸術専門学校副校長東京工芸大学
現代写真研究所講師

最優秀賞（宮城県知事賞）「群　　翔」　　蛭田　敏夫

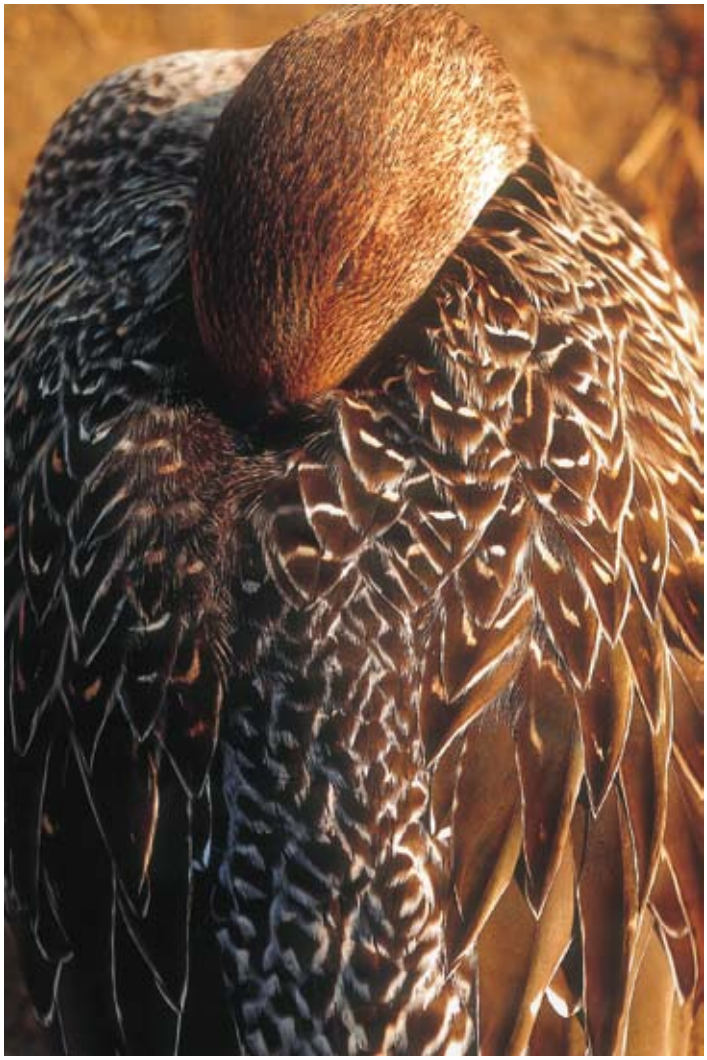
〔評〕マガンが飛び立つ瞬間。群舞している様子を、理想的なフレーミングで捉えています。背景がボケているため奥行きを感じさせ、一枚の中に空間の広がりを感じます。伊豆沼・内沼にいる鳥の数が豊富であることを強く感じる作品です。

金賞（栗原市長賞）「出　番　前」　　千葉　　稔

〔評〕飛翔を間近に控えたサギが写っています。霧の幻想的な風景の中、堂々としている個の強さを感じます。美しい静かなトーンの中、鳥の仕草と動作に味わいを感じる作品です。

優秀賞（宮城県伊豆沼･内沼環境保全財団理事長賞）「群　　翔」　　千葉　忠雄

〔評〕群舞している鳥が、秋の風景の中に溶け込んでいます。着水したマガンと飛んでいるマガンとが、強い役割をしています。その二群の姿がとてもみごと。ロングの風景で全体を捉えることにより、枯れ蓮と鳥の飛翔が生かされている作品です。



金賞（登米市長賞）
「羽　紋　様」　　伊藤　正美

〔評〕クローズアップして捉えた羽紋様。羽の模様が複雑に入り組んでいて、こうして表現できるのは写真の魅力でもあります。こういった所に目を向けるのは、作者の落ちついた視点があるからでしょう。無数に点在する鳥たちを想像させる作品です。

銀賞（若柳観光協会長賞）
「夕日に向かってマガン乱舞」
伊藤　孝喜

〔評〕まさにタイトル通りの作品。とても雄大で、シルエットになっているマガンと、太陽とが共に捉えられダイナミックです。夕焼けの雰囲気が伝わってくると同時に、それが生かされ、迫力ある作品に仕上がっています。

銀賞（築館観光協会長賞）
「二花二葉」　林　茂

〔評〕湖水に浮かぶ、二つの蓮の花。花の色彩がとてもみごとで、花と真ん中にある種とが象徴的に捉えられています。小さな二つの花が、命を象徴しているようです。

銀賞（登米市観光物産協会長賞）
「ふれあい」　菊池　郁子

〔評〕カモと白鳥の群れにエサをやる子供。この姿がとてもカワイイ雰囲気を醸し出しています。一枚の中に、人間、白鳥、カモが捉えられ、互いに助け合っているように感じられます。とても心温まる作品です。

銀賞（宮城県伊豆沼･内沼サンクチュアリ友の会会長賞）
「蓮と雁」　菅原　敏彦

〔評〕スケールの大きい作品です。蓮と雁、丸い太陽が同時に写されていて、素直に捉えられています。全体の雄大さが伝わってきて、みごとな調和が一枚に収められている作品です。

銅賞（河北新報社賞）
「暁映雁行」　伊藤　浩

〔評〕太陽を中心に捉え、その中に鳥をシルエットとして入れた作品です。絶妙なタイミングで撮影されています。全体に行き渡っている光がみごとで、ダイナミックな印象です。狙いを明確に引き出した作品です。

銅賞（朝日新聞社賞）
「戯　　れ」　高橋　利行

〔評〕二羽の白鳥が戯れている姿です。シャッターチャンスがとても良く、実にみごとに美しく捉えられています。背景がボケていることで、周辺の状況などの想像が大きく膨らみます。すぐれた写真表現となっています。

銅賞（毎日新聞社賞）
「岸辺の情景」　武居　節子

〔評〕白鳥とカモがいて、前景に枯れ蓮の種を配したみごとな作品です。枯れ蓮が累積している姿が、とても不思議な雰囲気を醸し出していて、おもしろいです。枯れ蓮の部分にストロボをあてた事が、より効果的になっています。

銅賞（読売新聞社賞）
「真夏の花園」　菊地　誠一

〔評〕蓮のみごとな姿が捉えられ、写し出されています。建物と観光船をポイントに、真夏の沼をみごとに引き出した作品です。望遠レンズを使用して、奥行きをグッと引き寄せることで、より効果的に写し出されています。

銅賞（岩手日報社賞）
落ちた羽、落ちる日　水谷　雅寿

〔評〕飛び散って落ちた羽を、みごとに象徴的に表現しています。作者の白鳥に対する想いが伝わってきます。夕日を背景に入れながら、白鳥の姿を想像させる風景です。

入選「夏のひととき」　阿部　三彦

〔評〕とてもみごとな作品です。枝の上にサギが一羽止まっている夏の風景。点々と綺麗に咲いている蓮の花が、サギとみごとにマッチした作品です。

入選「まこも堀り」　中山　隆夫

〔評〕白鳥の餌となるマコモを掘っている光景です。一生懸命に作業している人々が、表現されています。６人がバランス良く配された作品です。

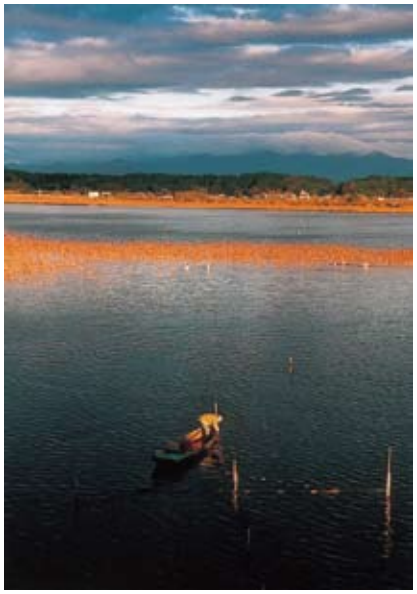
入選「昇陽の刻」　藤原　幸子

〔評〕マガンが日の出と共に一斉に飛び立つ光景が、ダイナミックに捉えられていてとても素晴らしい作品です。画面構成が大胆で、スケールの大きさを感じます。

入選「夕餉のとき」　斎藤　潤子

〔評〕白鳥とカモにエサをやっている人物が、みごとに生かされています。作者が気持ちを込めて撮影していることが、伝わってきます。

入選「晩秋の漁」　椎名　栄



〔評〕白鳥がまだ少ない時期の伊豆沼で、作業をしている一人の漁師。漁師の姿はとても小さく写っていますが、大きな存在感を放っています。

入選「初冬の朝」　小出　一郎

〔評〕大きな自然を感じる作品です。前景に岸辺の木立を入れて、湖に白鳥が浮かんでいる環境を見せていて、とても美しい魅力的な作品です。

入選「夕　　映」　西條　きみ子

〔評〕小さな船に乗って沼に出かけた人物を中心に、水面に反映している影で波の強さを見せています。枯れ蓮と一人の人間の姿が、絶妙に捉えられています。